

ORIC NEWS

翔飛

ひこう

No.8 (2005.4)



ORICエントランス棟
現在は入居者のパネルや商品を常設展示しています

- 目次 -

巻頭言	2
ORICの現状とトピックス	2・3
研修・交流会活動	4～6
入居者の活動・トピックス	6・7
入居企業のご紹介	7・8
新入居者のご紹介	8
入居案内	8

巻頭言



「卒業とポスト・インキュベーション」

ORIC センター長 松尾 彰

ORICが開設してこの4月で3年目を迎えます。ORICはIT及びものづくりの分野での新技術・新商品の開発及び創業の支援を通じて地域の産業発展に寄与することを目指し、岡山県がPFI事業で設置されたものです。設立から2年、可能性を秘めた数多くのベンチャー企業が入居し「明日の飛翔に向けて」奮闘・努力を行なっています。インキュベーションという名前が表すように創業間もないベンチャー企業の入居のウェイトが大きくなっていますが、この3月にはORIC開設時から入居していたベンチャー企業2社が、個々の企業のご努力・奮闘に加え、関係する諸機関のサポートを頂き、発展的に「卒業」という形でORICを退所いたしました。2社いずれも県内での事業の継続・拡大が計画されており、今後の地域経済への貢献が期待されます。このうち1社は県外からORICに入居し卒業後も拠点を県内に立地すること

となり、意義深いものがあります。

今年度は開設当初から入居した企業が3年目を迎えることから、2社に続いて事業基盤の構築が進み、成果を出して、来春には卒業を迎える企業が次々と現れることを期待しています。しかし、これから現れる卒業企業が県内に立地・集積して、産業クラスターの形成にまで発展するには、卒業企業の地域内立地の支援や卒業後の成長を支援するポスト・インキュベーションの施策や取組が早期に必要なってきます。そのために、ORICはメイン・インキュベーションのみならず、ポスト・インキュベーションも視野に入れて、創業支援活動を行っていきたいと考えています。今後とも、自治体、各種産業支援機関、大学、企業、金融機関等の地域のコミュニティーを始め皆様の一層のご支援ご協力をORIC並びに入居企業、卒業企業に頂きますようお願い申し上げます。

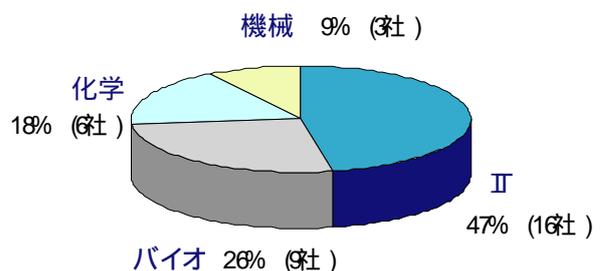
ORICの現状とトピックス

❖ ORICの開設から2年経過しました。この4月1日現在のORICの入居状況と昨年度の入居企業活動のトピックスをご紹介します。

<入居の状況>

1. この1年間に、ORICを卒業や計画見直し等で退去した企業、及び新たに入居した企業が現れて、現在の入居企業数は、昨年4月度に比べて2社少ない34社となっている。業種別ではIT系企業16社、バイオ系9社、化学系6社、機械系3社となっており、依然、IT及びバイオ(機能性食品を含む)系が多い。研究室/試作開発室には58室中44室が入居し、入居率は76%となっている。

入居企業の業種



< 独立型の創業企業の入居が進む >

- 2004年度に入居した企業 10社中 8社が入居直前ないし入居後に会社設立を行っており、地域の創業促進に役立っている。また、前年4月と較べると、既存企業の第2創業が減少し(16→13社)、独立創業型の若い企業が増えている(20→21社)、独立創業型企业の中には大学発ベンチャーが6社と高い割合を占めている。
- 県外企業は減少したものの(9→7社)、依然多い。うち、2社が中国系の創業企業であり、1社がインド系企業である。
- ものづくり系企業では、18社中 17社が共同研究、委託研究等で「大学の知」の活用が進んでいる。一方、IT系企業では 16社中 5社になり、大学との連携は少ない。

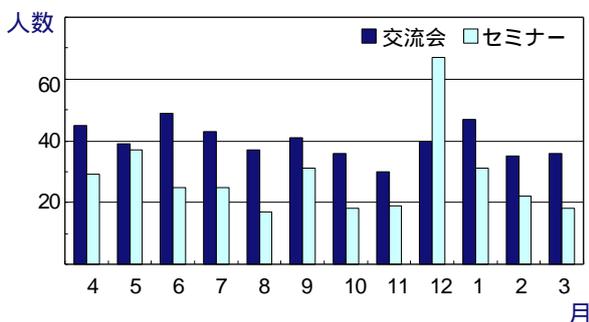
< 活発な入居企業の活動と成長 >

- 大学の「知」を活用した企業で、2社が NEDO((独)新エネルギー・産業技術総合開発機構)の優れた研究成果の実用化・企業化を促進するための大型補助金事業の対象に選ばれ、他にも1社が経済産業省の補助金の対象事業に選ばれている。その他にも補助事業に採用された企業が多く現れた。
- 国、県、産業振興財団等が開催・後援している展示会等のイベントにも入居企業は積極的に参加し、14のイベントに、27社が展示出品し、12社がプレゼンテーションを行っている。これらのイベントへの参加は販路開拓やビジネスマッチングに役立っていることが多い。
- この1年間で7社の企業が事業の発展に伴い増資を行った。うち1社が有限会社から株式会社に発展した(2年間での累計3社)。

< 定着した交流会・セミナー・研究会とネットワーク形成 >

- 交流会・セミナー：交流会は月1回が定着した。この1年間(12回)の参加者は延 478人に達し、平均 40人/回となり、昨年度の8回、延 258人、平均 32人を上回った。交流会に引続

交流会及びセミナー参加者数



き、毎回セミナーを実施している。交流会・セミナーともに、入居者以外に産業支援機関・大学・金融機関や外部企業からも参加を頂いている。

- IT研究会：IT企業の集積を活かし、連携による相互補完や新たなビジネス機会の増加を目指して IT研究会を立ち上げた。隔月で開催して5回を重ね、LAMPやCURLの等のセミナーを開き、連携の可能性を求めている。
- 入居企業間や交流会参加企業との連携件数は、販路支援を含め 20件を超え、小規模ではあるが、企業集積の効果やネットワーク形成支援の効果が現れている。

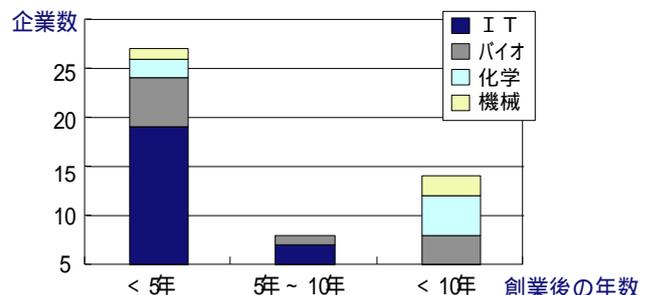
< 発展的卒業企業の出現と退出企業 >

- 当初の開発計画を終えて発展的に「卒業」した企業が2社現れた。うち県外からの企業1社は入居期間中に資本金を 3,000万円からスタートして逐次増資を図り 1.6億円まで成長した。卒業に際しては、CRICも県内立地を支援した。この県外企業は、岡大のシーズを活用し、共同研究のために CRICに入居した。地域の大学が県外からの企業誘致の大きな原動力になった一例になっている。一方、残念ながら、会社清算による退去企業も1社現れた。また、県外企業を中心に、CRICでの活動が十分に進む前に計画変更により退去した企業が5社現れた。

< 常駐者の増加と雇用の創出 >

- 4月時点の企業の常駐者数は 95人になり、前年から 10人増加している。昨年度中に入居中企業の 10社が 19人の雇用を伸ばし、5社で 10人の雇用を減らしている。
- CRIC開業以降の雇用創出は、独立型創業とその成長に伴う雇用 43名、県外企業の入居とその成長に伴う雇用 17名を中心に合計 71名に達しており、地域の雇用創出にも役立っている。今後、卒業企業が輩出し、地域に定着し更に発展することで一層の雇用創出を期待したい。

入居企業の創業後年数と業種割合



研修・交流会活動

ORIC交流会及びセミナー

1 月度

交流会：事業紹介 / 三共精粉(株) (株)ザイン
セミナー：「会社の税務戦略と決算対策のポイント」

事業紹介は三共精粉(株)と(株)ザインの2社が行いました。三共精粉(株)は主力製品である高品質の炭酸カルシウムの研究開発状況、製品の特徴などの紹介をし、(株)ザインは主力事業である情報セキュリティ事業に関し、今年4月から本格施行される「個人情報保護法」を踏まえた活動状況について説明をしました。

今回セミナーのテーマは「会社の税務戦略と決算対策のポイント」で、多くの企業の決算月が3月である事を考慮して準備しました。講師は石井栄一公認会計士事務所 / 税理士法人石井会計 / (株)トップマネジメントの公認会計士・社員、税理士 石井栄一氏で、役員報酬・役員退職金の基礎知識、交際費をめぐる基礎知識、減価償却・引当金の基礎知識、決算・税務申告をめぐる基礎知識を解説し、節税型決算のヒントとして幾つかのチェックポイントを示していただきました。



税務セミナーの様子

2 月度

交流会：事業紹介 / (株)英田エンジニアリング
セミナー：「倒産しないための資金繰り実務」

事業紹介は試作開発室に入居している(株)英田エンジニアリング社が行いました。

同社は美作市に本社を置き、県内に4工場、中国に2工場を有し、「常にチョット進んだ技術と発

想」をモットーに事業展開を行っています。同社の製品群は冷間ロール成形機、各種の自動化専用機や無人駐車場・駐輪場の管理システム、また半導体関連分野ではラッピング機、ポリッシング機等で事業は多岐に亘っています。いずれの製品も同社の独自技術により開発されたものです。ORICでは大学発の独創的シーズである「3種類の物体を連続的に乾式比重分離する装置」の商品化に取り組んでいます。

セミナーは監査法人トーマツの有澤和久マネージャーが「倒産しないための資金繰り実務」と題して講演をされました。資金繰りはお金の流をコントロールすることで会社経営にとって重要な業務です。技術系出身の多い、かつ創業間もないORIC入居の経営者にとって必要な基本的知識として、今回は簡単な伝票仕訳から損益計算書、貸借対照表、資金計画や実績表の作成を指導して頂きました。

3 月度

交流会：事業紹介 / (株) JAPAN MAGGOT COMPANY
「融資制度のご紹介」(株)トマト銀行
セミナー：「経済産業省の実用化技術開発施策」の説明
「岡山県の中小企業支援策」の説明

3月のORIC交流会は18日に行われ、事業紹介は(株) JAPAN MAGGOT COMPANYが行いました。同社の事業内容は本号の入居者紹介を参照いただけますが、事業紹介では同社が事業化する手足の皮膚が壊死して出来た潰瘍をハエの幼虫に食べさせて治療する方法の劇的な効果事例が示され、過去にはこの治療法が広く行われていた地域があったが一旦すたれ、再度1990年代に入り、オーストラリアや英国、ドイツなどで普及してきている現状、日本でも糖尿病の患者増加に伴い多くの病院が導入を計画していると解説されました。

また、(株)トマト銀行から「トマト銀行 融資制度のご案内」として同銀行がORIC入居企業限り提供しているサービスとして、無担保、第三者保証人不要の融資制度(上限500万円)について説明がありました。

今回のセミナーは中国経産局と岡山県より平成17年度の公募型事業(ベンチャー企業向け)について各種事業の概要と申請資料作成のポイントについて説明頂きました。先ず、同局の長尾博行氏

が「経済産業省の実用化技術開発施策の説明」を講演され、地域における実用化技術開発支援施策など新規産業・新市場創出支援の取り組みを説明すると共に、これまでの審査経験から申請するに当たっての良い提案書の考え方として、十数項目にわたり具体的「ポイント」を解説頂きました。引き続き、これを受けた形で岡山県産業労働部産業振興課から「岡山県の中小企業支援策の説明」が行われました。



(株) JAPAN MAGGOT COMPANY佐藤氏による事業紹介

ORIC IT研究会の開催

第4回

テーマ「LAMP」

1月17日に第4回IT研究会が開かれました。テーマは前回に続いてオープンソースシステムの開発プラットフォーム技術の一つである「LAMP」(LはLinux、AはApache、MはMySQL、PはPHPの頭文字)です。K市からの引き合いに対し、(株)シスコ・コミュニケーションズが大阪のスマートスタイル社と組んでLAMPに基づいたシステムを提案、受注しました。今回のIT研究会では、同社から受注システムの概要の説明が行われ、開発に参加を希望する入居企業があれば歓迎するので連絡してほしいとの提案がされました。これから自治体を中心にオープンソース化の流れが強くなるので今後とも開発パートナーを求め、より大きな開発ニーズにも応えていきたいとのことです。

第5回

セミナー「Curlによるリッチ・クライアントWebコンテンツと分散協調e-ラーニング環境の構築への利用」

3月10日に講師として岡山理科大学から総合情報学部情報科学科榊原道夫助教授を迎えて第5回

IT研究会が開催されました。タイトルは「Curlによるリッチ・クライアントWebコンテンツと分散協調e-ラーニング環境の構築への利用」。同助教授はこれまで既に3年にわたり高大連携として遠隔授業など県内の高専、高校との学外連携を推進してこられ、「より良い教育とは、(個々の学習者に合わせた)より個別の教育ではないのか」との考えで教育へのITの活用を研究しておられます。講演では新しい概念である「リッチ・クライアント」がCurl言語を用いることで生産性が高く実行時のレスポンスも良い分散協調e-ラーニング・システムを構築できることを紹介されました。これまで企業を中心として機能・データをサーバに集めPCは軽いものにしようという「シン・クライアント」の考えが広がっていることは良く知られていますが、この「リッチ」というのは逆に、インターネット環境を意識してPC側に機能を十分持たせることで、実行時の情報のやり取りを押さえ、高速にサクサク動く環境を作り、且つプログラミングの表現機能も豊かにしようというものです。韓国企業と組んでe-ラーニング・システムを販売しているレックウェル社の國富社長は実際にe-ラーニング市場での経験を交えて質疑をされ、講師との熱心な教育論議、インターネット論議が続きました。

青空知事室の開催

「飛翔！夢の実現に向けて」



青空知事室が2月15日に交流サロンで行われました。テーマを「飛翔！夢の実現に向けて」とした今回の青空知事室開催の冒頭に当り石井知事は「選択と集中を進め、バイオ、ナノテク、福祉など戦略的6分野を選び一点突破型で産業育成に力を入れていく」との方針を述べられ、続いて、ORIC入居企業11社が事業内容を説明し、知事と意見交換しました。ものづくり系(5社)とIT系(6社)

の 11社で発言順に、(株)アスコルバイオ研究所山本格代表取締役、アドテック(株)斎藤正代表取締役社長、(有)エムテクノロジー久山富佐美取締役、(株)日本ステントテクノロジー小村育男取締役、(株)ピークル妹尾昌治取締役、(有)アイ・エス・ティ吉井誠代表取締役、(株)シスコ・コミュニケーションズ川西博仁代表取締役、シックス(株)岸本昌弘代表取締役社長、(株)ネットワーク 21佐立幸亮代表取締役、(株) VOIPACK JAPAN稲葉多吉代表取締役社長、(株)レックウェル國富郷太郎代表取締役社長でした。リサーチパーク地域の利便性の向上、CRIC卒業後の事業拠点立地、集積の問題、CRICの研究開発環境の整備など色々なテーマについて活発な意見交換が行われました。知事は今回の入居企業の声を踏まえ今後の政策運営に当るので、CRIC企業には引き続き着実な事業展開を進めて欲しいと激励されました。尚、知事は当日、意見交換会に先だて、(株)日本ステントテクノロジーと(株)ピークルの研究室を視察、開発の現状と事業化状況について詳しい説明を聞いて、CRIC企業の事業活動の理解を深められました。

意見交換会の後、参加者全員で記念撮影し、盛況裏に終了しました。

❖ 岡山・上海 IT企業交流会

岡山県と上海市の IT企業同士の交流を深める事を目的として、岡山インキュベータ協議会 (OIA) の企業 5 社とシステムエンジニアリング岡山 (SEO) の企業 4 社の岡山企業合計 9 社が上海を訪問しました。上海の上海科技創業中心 (インキュベーションセンター) に多数の上海 IT企業を迎え、中国側 3 社、日本側 4 社によるプレゼンテーション会と個別商談会が行われました。上海科技創業中心は上海のベンチャー企業支援、創業支援の草分け且つ中核的センターで、上海科技企業孵化協会 (インキュベータ協会) のトップ王榮主席が主任です。CRICからはシスコ・コミュニケーションズ社、シ

ックス社、ボイバック・ジャパン社の 3 社が参加しました。事前に訪問する岡山企業の事業内容を上海側に伝え、上海側では上記インキュベータ協議会が中心になって上海側企業に紹介し、商談意思のある企業をリストアップ、岡山側に連絡するという事前準備の良さが効を奏して多くの商談に繋がりました。岡山企業のプレゼンテーション及び個別商談会には通訳が用意され、資料の中国語版作成にも県の支援があり、岡山からの参加企業は身一つでの参加が可能でスムーズな商談会となりました。ボイバック・ジャパンは今回の商談で現地側と共同出資し上海に IP電話システム販売の現地法人を設立する事が決まりました。今後の展開が期待されます。



シスコ・コミュニケーションズのプレゼンの様子

❖ 岡山・倉敷ベンチャー企業間交流会 倉敷 SOHOネットワークとの交流会

3月2日に吉備の国クラスター SOHOネットワークと岡山インキュベータ協議会参加企業の交流会が岡山ロイヤルホテルで行われました。特別講演として広島 SOHOクラブの牛来千鶴氏による「SOHO集積地の創造から得たもの～人を呼び人を動かすビジネスのヒント～」が行われました。これを機会に岡山・倉敷地区のベンチャー企業同士連携を持った活動が生まれてくる事が期待されます。

入居者の活動・トピックス

第9回岡山リサーチパーク研究・展示発表会の開催

県内の研究機関と企業が取り組んでいる研究テ

ーマや製品を紹介する研究展示発表会が1月22日に開催されました。今年はりサーチパークの10周年を記念して、企業が発表しやすく、参加者の理解が進むように、従来の研究発表会からポスター

セッションでの展示発表会となりました。発表件数が前年の 39件から 67件と、参加者も 500名と大幅に増加し、活気溢れる展示発表会となりました。CRIC入居企業からも 9 件の展示発表が行われました。

岡山・香川テクノプラザ 05 in大阪

今回の大阪地区でのテクノプラザは岡山・香川連携事業として 1月 21日に大阪産業創造館で行われました。岡山産業振興財団とかがわ産業支援財団が共催したこのイベントには岡山県から 19社、香川県から 6社が参加し、CRICからは㈱レックウェルと㈱光フィジックス研究所、花田技研工業㈱の 3社が展示参加、花田技研工業㈱はプラン発表にも参加しました。花田技研工業㈱の花田社長によると、大手企業の企画部門の方が来られたとのこと、㈱光フィジックス研究所の渡部社長は関西地区で連携している大学の研究者の方々と事前にアポイントをとって日頃不足がちな研究者同士のフェイスツーフェイスの打ち合わせを行っていました。㈱レックウェルも関西地区の見込み客、潜在パートナーからなる来訪者の対応に忙しくしていました。岡山県は岡山産業振興財団と連携して毎年東京、大阪他で展示会を行っています。参加企業への補助があり、非常に安価に参加でき、

来場者も多いので販路開拓、パートナー・マッチングに極めて効果があります。CRICはタイムリな情報提供に努め、入居企業各位の積極的な参加を推奨しております。

ベンチャーフェア JAPAN 2005

1月 26日から 28日まで東京有楽町の国際フォーラムでベンチャーフェア JAPAN2005が開催され、CRICからは花田技研工業が展示参加しました。昨年 12月 1日と 2日の二日間広島県立広島産業会館で行われたベンチャープラザちゅうごく 2004でのプラン発表が好評で中小企業基盤整備機構中国支部から推薦を受け、今回の参加になったものです。



花田技研工業のブース

入居企業のご紹介

株式会社 JAPAN MAGGOT COMPANY

同社は、昨年 11月 26日に開催された@ベンチャー CKAYAWAのビジネスプラン・コンテストで最優秀賞に選ばれた岡大の三井先生が起こした企業です。

糖尿病の悪化などによる壊死等の難治療性の潰瘍で手足が切断される患者にとって、切断せずに治療ができるマゴット・セラピーは福音です。現在、欧米ではマゴット・セラピーは約 2,000もの医療施設に使われて顕著な治癒効果が認められています。日本では三井先生が先駆けて、医療の現場で利用し、顕著な効果を上げています。

現在、毎年 1万人が治療ができずに切断されていますが、今後、より多くの病院がマゴット・セラピーの導入でこれら患者の潰瘍の治療を行うた

めには、治療に使用する無菌のマゴット（ハエの幼虫）を国内で生産し供給をすることが必要となっています。JAPAN MAGGOT COMPANY社はマゴット・セラピーの普及とマゴットの供給を目指しています。壊疽等で苦しんでいらっしゃる方が知り合いに居ましたら、是非マゴット・セラピーをご紹介して上げてください。

会社概要

代表者	三井 秀也
設立	2005年 4月
T E L	086-286-9320
U R L	http://www.icn-jp.com/~maggot/

花田技研工業株式会社

花田技研工業は 2004年 4 月創業のベンチャーです。資源循環型の社会に対応して、廃棄物質灰の溶融スラグを有効活用した着色骨材をカラースラグとして商品化しました。寒水石、珪砂、採石等の自然破壊・環境破壊に繋がる原料を着色した従来の着色骨材に比べ、カラースラグは環境にやさしいものとなっています。原料の溶融スラグは従来の骨材に比べて均一な着色が困難でしたが、同社が独自の着色法を開発してカラースラグの商品化に至ったもので、コーティング材の骨材への附着性、隠蔽性、退色性が優れています。また、環境対応型商品として、エコマークの認定を目指し

ています。この商品は、住宅壁塗料の着色骨材原料や建材ボード等の建築分野への利用やガーデニング分野、軽歩行道路等の舗装分野等に、多彩なカラーを活かした用途が見込まれています。現在、積極的な販路開拓を行っています。ご関心のあるかたは下記にコンタクトして下さい。

会社概要

代表者 花田 義和
設立 2004年 4 月
T E L 086-286-9377
U R L <http://www.hanada-giken.co.jp/>

新入居者（入居内定者）のご紹介

3 月 24日に第 9 回入居審査会が開かれ、厳正なる審査の結果、下記の 2 名の入居の内定が発表されました。両者とも個人での申請となりましたが、ORIC入居後に会社設立の予定です。

入居内定企業名 代表取締役	事業の概要	本社所在地	分野
(株)ユニバーサル テクノロジース 河原 昭二	・介護施設向けの入浴介助者用「冷房スーツ」の開発と販売 ・高宇温環境作業向け、冷房作業スーツの開発と販売 ・冷房モジュールの販売と同技術のコンサルティング・受託開発・技術販売 ・半導体レーザー向け温度制御技術に関する技術コンサルティング	岡山市	機械
アナハイム エンジニアリング(株) 服部 励起	・インターネット経由の会員制新広告システムの開発・販売 ・現在一方通行傾向が強い広告の仕組みを双方向にして、広告主から新規顧客の動向、来店顧客数などを把握できるシステムを提案・開発。	岡山市	I T

入居者募集中！！

随時、入居のご相談に応じていますので、ご連絡下さい。(TEL. 086-286-9116)

施設使用料

施設区分	面積	部屋数	使用料の月額
研究室 小	約 25 m ²	22	45,000 円
研究室 大	約 50 m ²	30	88,000 円
試作開発室	約 100 m ²	6	175,000 円

- ・入居後 3 年間は、更に 1 / 2 減免の制度もあります。
- ・複数室の利用も可能です。

募集概要

対象： 情報通信や、ものづくり分野を中心に
新技術・新製品の開発、創業を目指す個人・グループ・企業。

期間： 3 年以内（再申請もできます）。

審査： 入居にあたり、審査があります。

次回募集

原則として 3 ヶ月毎に入居者審査会を開催しています。次回は 5 月末までに事業計画書を提出された方を対象に、6 月中に開催の予定です。

(参考) 【入居可能研究室】(2005年 4 月現在)

研究室小 (25m²) : 2 室

研究室大 (50m²) : 7 室

試作開発室 (100m²) : 5 室

